

子ども大学かわごえ

CUK だより

第21号 NO.110801

2011年8月20日

自分が立っている所を深く掘れ。そこからきっと泉が湧き出る！
ニーチェ

第2回「科学映画と親睦の会」 学生の感想と学習の方法

7月9日の第1回「科学映画と親睦の会」に引き続き7月30日（土）に第2回「科学映画と親睦の会」を実施し、NPO法人科学映像館により借用したDVD「よみがえる金色堂」を上映しました。参加者は、学生78名、保護者16名、スタッフ6名、科学映像館久米川正好理事長で、合計101名でした。

映画に先立ち、事前に電子メールで学生たちに予習をするよう伝えました。予習のテーマは、①中尊寺金色堂はいつごろだれが創ったのか、②金色堂はなぜ修復しなければならなかったのか、③最近中尊寺金色堂が世界遺産になったが何が評価されたのか、④今の金色堂は850年前の金色堂ではなく復元されたもの（にせもの？）なのになぜ世界遺産になれたのか、⑤なぜ金色堂なのか、でした。映画に先立ち十人前後の学生から予習の成果を発表してもらい、だれが金色堂を作ったのかについて発表がありました。②から⑤までの課題についてはあまり要領のよい説明はありませんでした。映画を見ると藤原清衡が中尊寺をなぜ創ったのか等について説明がありますが、みんなどれだけ気がついたかな？



添付別紙で紹介しますが、討論や映画を通して学生諸君が様々な疑問を感じたことがわかります。かれらの疑問には、奥州藤原氏とはどのような人たちか、中尊寺には金色堂以外にどのような寺があるのか、日本には他にどのような世界遺産があるのか等々が書かれています。映画鑑賞の後で源義経の話が出たり、世界遺産には何種類かあり（注：文化、自然、複合、さらに記憶遺産）、最近日本で初めて筑豊炭田の記録画（注：山本作兵衛）が世界記憶遺産になったなどの話も出ました。

このように映画をみたり討論した結果、学生諸君は様々な疑問を抱くようになりました。

その一方、一人の4年生が感想文用紙の「もっと知りたいと思った事はありませんか」という質問の項で、“すべてインターネットで予習したのでありません”と書いています。小学校4年生だからこのように書くのはよくわかりますし、しっかり予習をしたのはよくやったと褒めたいくらいです。しかし大学生としては、“予習したからすべてわかった”というのはいささか問題です。上で紹介したように、映画を観た後でも様々な疑問やよくわからない話が出ました。だから、すべてわかったというのは、ちょっと早とちりだということがおわかりでしょう！

大学生の学習法に関する注意：

つねづね言っているように、子ども大学かわごえは小学校ではなく大学で、諸君は大学生として学習をすることになります。よい機会ですので、諸君が大学生として学習するにあたってどのような点に気をつければよいか案内してみましょう。

第一に、自分が手にした新しい知識や情報が本当に正しいのかという疑問をつねに持たなければなりません。このため同じテーマについて他の情報源を調べることも必要かもしれません。朝日新聞と毎日新聞では言うことが異なることは当たり前で、真理に迫りたければ他の新聞や雑誌や書物を調べなければなりません。人を疑うのはよくありませんが、学問の面では大学生は疑問をもつことが大切で、一つや二つの情報にとびついて満足するのではなく、いくつかの情報や知識を比較検討する心の余裕をもたなければなりません。

第二に、“予習したからすべてわかった”と自分の知識に簡単に満足してはいけません。自分の知識を疑い、より正しい知識を求めて学習をする好奇心や探究心が、自分の知識を増やし知恵を発達させ君たちを成長させる原動力となります。

第三に、学習した成果を正しく表現する必要があります。学習したことを正確に相手に伝えなければ、学習していない、知識がないと相手に思われてもしょうがありません。予習したことを発表する場合、ノートを見ながら小さな声で読み上げるのでは、相手の心に届きません。調べたことを要領よくまとめ、はっきりした声で堂々と発言すると、相手も真剣に聞いてくれます。現代のようなグローバルな時代は、とくに表現力の強化が求められます。

歴史の学習の仕方（一つのころみ）：

30日の授業で司会をした酒井は歴史学者ではありません。しかし歴史の勉強の仕方の一つに次のようなやり方があるのではないかと考えています。

通常日本歴史を学校で学ぶときは、縄文時代から始まって現代にいたるまで時間軸にそって古い事実から新しい事実へと学び、重要な事件の起こった年代を一生懸命暗記します。

=> まったく退屈でつまらない方法ですよ！

日本の世界遺産



酒井式歴史の学習方法の一例を「よみがえる金色堂」に関係して説明します。

金色堂—中尊寺を中心に置き

①時間を軸に、だれがこれらの遺産を作ったのか、すなわち奥州藤原氏の歴史について調べます。

②空間を軸に、

イ. 中尊寺の内部（金色堂の他にどういう建物があるか）や周辺の様子について調べます。さらに、当時の奥州全体の様子も調べると面白いかもしれない。

ロ. 奥州藤原氏が栄えた西暦 1087 年～1189 年の約 100 年間について視野を大きく広げて調べます。

a. 藤原氏の本家本元である中央（京都）の藤原氏の様子を調べます。

=> ①時間を軸に藤原氏の成りたちからの歴史も調べます。

b. 京都の動向に関連して、平氏と源氏の争いについて調べます。さらに、奥州藤原氏の滅亡に関係する源頼朝と義経の兄弟の間柄につき調べます。

c. このころの世界はどうなっているのだろうかについて調べます。主な事件（政治や文化や人物）は何だろうか？

☆西洋では第 1 回十字軍が編成され、エルサレムへ出撃している。

☆カンボジアのクメール王国がアンコールワットの建設を始めた。

③文化を軸に、

イ. 世界遺産はいつだれが制定したのか？

ロ. 世界遺産にはどのような種類があるのか？

ハ. 日本にはどのような世界遺産（4 種類）があるか？

ニ. 世界にはどのような世界遺産（4 種類）があるか？

④技術を軸に、

人類は何千年の昔から驚くようなハイレベルの遺産を創り出した。

イ. 日本にはどのような高度で優れた遺跡・遺産があるか？

ロ. 世界にはどのような高度で優れた遺跡・遺産があるか？



以上の学習方法はほんの一例にすぎません。きっと、もっとよいやり方があるでしょう。しかし少なくとも縄文時代から現代まで機械的に学習する方法よりは楽しく学習できるはずです。なお、以上のすべてについて調べるのは時間的に大変負担になります。興味を感じるものについて調べるだけで十分ではないでしょうか？

なお、学習の手段、調査・研究の方法としては次のようなものがあります。

①インターネット

あまりインターネットに依存しすぎるのはよくありませんが、手っ取り早く使うのであれば、電子辞書 Wikipedia があります。次の百科事典のような信頼性・正確性に欠けませんが、そのつもりで利用すると便利です。

②百科事典

平凡社や小学館のものが代表的です。ブリタニカという本格的なものもあります。いずれも公立の図書館に備えてあります。

③用語事典

新しい情報を調べるなら、『現代用語の基礎知識』や『イミダス』や『知恵蔵』という毎年発刊される事典もあります。

④新聞や専門週刊誌

新しい事柄を調べるには図書館で新聞や専門週刊誌を調べる必要があります。

⑤専門書、参考書

例えば、源氏と平家の争いについては吉川英二の『新・平家物語』が優れていますが、長編なので5-6年生が夏休みなどに読むのに適しています。

以上簡単に紹介しましたが、参考になれば幸いです。なお、事典と辞典（字引）は違いますので注意してください。

添付別紙に30日の授業で学生たちが感じた疑問について紹介しています。疑問は全部で40件あり、似たものをまとめて分類すると次の7項目に集約されました。

- ①中尊寺・金色堂建立に関する歴史的事実
- ②中尊寺・金色堂に関する一般的・文化的知識
- ③中尊寺・金色堂の技術的・物理的・経済的側面
- ④金色堂に使われた材料
- ⑤中尊寺・金色堂と世界遺産との関係
- ⑥世界遺産の実例 - 日本と世界
- ⑦学習方法

上述の酒井式歴史学習方法を一つのパターン（地図）と考えると、以上の個々のグループはパターンの中のどこかの個所に当てはまります。このため一つ一つのグループや疑問が歴史学習全体のパターンの中でどのような位置にあり、前後左右の課題とどういう関係にあるかがわかります。やみくもに学習をするのではなく、地図を見ながら航海するように、方向感覚をもって学習するとそれなりの効果が出ます。もちろん歴史学習についても色々な学習方法があると思います。これは一つのアイデアにすぎませんので、いくつかの方法のなかから自分に適した学習の仕方を探してください。（酒井一郎）

今後の授業予定

1. 8月20日（土）埼玉県立川越工業高等学校と共同で～生徒が先生の「ものづくり教室」～を同校で実施。
2. 8月26日（金）造幣局（池袋）及び凸版印刷(株)印刷博物館訪問（学生50人）
3. 9月10日（土）授業 国際開発センター 三井久明主任研究員
「世界にはなぜ豊かな国と貧しい国があるのだろう」 教室 尚美学園大学

子ども大学かわごえ

学長 望月 修

NPO法人子ども大学かわごえ
〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6
霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>
TEL 080-2053-2991（事務局直通）
FAX 049-233-1640F
E_MAIL info@cuk.or.jp